

30. RIA 法による β -thromboglobulin (β -TG) と 血小板第4因子 (PF-4) に関する検討

石井 勝己 小林 剛
中沢 圭治 山田 伸明
三本 重治 小林 純朗
鈴木 順一 阪井 和子
依田 一重 松林 隆
(北里大・放)
徳弘 英生 重広世紀子
(同・内)

血小板特異蛋白であり、血小板放出反応の際に循環血中に放出される物質である血小板第4因子 (PF-4) と β -thromboglobulin (β -TG) を虚血性疾患、血液疾患者について Radioimmunoassay を用いて測定したので報告する。

Kit は、PF-4 はダイナボットラジオアイソotope 研究所、 β -TG は科研化学のものを用いた。

検査対象は脳梗塞 5 例、心筋梗塞 5 例、慢性骨髓性白血病 5 例、真性多血症 5 例、血小板增多症

2 例、血小板減少性紫斑病 2 例、鉄欠乏性貧血 4 例、その他 5 例の計 33 例であり、計 45 回の測定を行なった。

測定方法は PF-4, β -TG 共に Kit に添付せる使用説明書に従い、duplicate で行なった。

結果：脳梗塞では PF-4, β -TG 共に高値を示したもののは 1 例のみであり、このことは脳梗塞直後に来院する場合が少ないと考えられた。心筋梗塞では 1 例を除き、いずれも高値を示しており、胸痛発来直後に来院することとの関係が考えられた。心筋梗塞については諸家の報告と一致した。慢性骨髓性白血病では検査対象となった症例のほとんどが血小板の増加をみとめていたが、1 例は PF-4, 20 ng/ml と低値を示した例があった。血小板增多症では一定の傾向はみられなかったが、減少症では両者共低値を示した。両者の相関係数は 0.74 であった。

今後、治療効果判定の指標として有効であるか否かを検討してゆく予定である。